



iYES Language School

フィリピンー安全な経済特区で

「知識力」より「実践力」

をつけるインターンシップ！

インターンシップ in フィリピン

体験記

vol.4

～大人の語学留学特集～



www.iyescorp.com

©2019 iYES Corporation



スービック政府機関インターン日記

今年 8 月に SBMA (Subic Bay Metropolitan Authority) でインターンシップをしていた森洋平です。実は私は元横浜市役所勤務で現在はイギリスの大学院に在籍中です。将来のことを見据えて海外の政府機関へのインターンを希望していましたが、なかなか見つからず…そんなとき、留学情報サイトで iYES Language School(以下 iYES)を見つけました。iYES はアジアでは唯一の政府機関にコネクションを持っている学校でした。また、大学 2 年から 3 年までアメリカ留学していた経験があるので、フィリピンの公用語が英語というのも決め手になりました。

この日記でインターン生活を紹介して、私と同じようにフィリピンでのインターンを検討している人の参考になればと思います。

2018/08/10「SBMA の最高議決機関に参加」

さて今日は、SBMA の最高議決機関である The Board of Meeting に出て来ました。出席者が会議中に立ち歩いたり、議長がスマホをいじったり、なぜか“おやつ”が出たりと日本の役所ではありえないことばかりで、かなり衝撃を受けました。こんな感じでもしっかり決めることは決まったみたいなのでとても不思議です。この様なカルチャーギャップにめげずにこの 1 ヶ月間でできるだけ色々なことを吸収したいと思います。



2018/08/11「オロンガポ市役所で市長と初対面!」

今日は仕事をしているオフィスを離れてスービックベイに隣接しているオロンガポ市に行って来ました。

スービックベイは主に経済特区として企業用地ばかりがありますが、オロンガポ市はフィリピンのローカルの人が実際に居住しているところであり、リアルな市民生活を見ることができます。

SBMA の職員の方も多くがオロンガポから通勤しています。写真を見ればわかると思いますが、まさに私たちが普段思っているフィリピンのイメージそのものだと思います。



訪問したのはオロンガポ市役所、裁判所など。もしかしたら市長に会えるということだったのですが、あいにく市長は不在。代わりに“パネル市長”と写真撮影。

しかし、同日夜に行われたパーティーでなんと本物の市長とお会いすることができました。ラッキー！パネルの通り素敵な笑顔で写真撮影に応じてくれました。



2018/08/13「災害級の豪雨に”出勤しない勇気”」

今日は本来 SBMA への出勤日だったのですが、なんと週末から降り続けている災害級の激しい雷雨の影響でほぼ全職員の出勤が免除になりました。

SBMA のトップである議長が決断をして早朝に全職員にメールで通知をしたものですが、この決断力と決断の早さには本当にただただ脱帽でした。

日本では公務員は災害の時こそ出勤しなければならないという泣きたくなる不文律があります。

しかし、SMBA の議長はいわゆる災害時（実際に災害は起こっていませんが）には職員の安全が優先するという考えを持ち、いわゆる「出勤しない勇気」を持って職員に示したのです。

これは地震が起こっても、台風が来ても、槍が降ろうとも、ゴジラが来ても何が何でも出勤しようとする日本人労働者が絶対に学ばべきことだと思います。

この様な“気づき”を得られたのもスービックでインターンシップを行う機会をいただいたからだと思います。

写真は金曜日の帰宅途中に雨に難儀する私の様子を写真大好きなフィリピン人の同僚が撮影したものです。



2018/08/17「1日に5回食事をするフィリピン人」

インターンシップを始めてから1週間経ちますが、毎日未知のフィリピン文化に遭遇して日本文化との違いを楽しんでいます。フィリピンでは1日5回ほど食事をします。朝食、午前中の間食、昼食、午後の間食、そして夕食です。私も最初にこのことを聞いた時、日本に帰るまでには確実に体重が増加していると思っていて、妻も「デブはやだー！絶対に太るな！」と絶叫していました。ただ、太るのはわかっているけど、みんなが食べていると自分も食べたくなってしまいます。写真はこちらに来てから食べた間食たちです。サンドイッチ、ビーフン？などいろいろなものを食べます。間食をすることが前提にあるのかなのか、昼食は日本の場合よりもライトです。白米とおかず1個という感じです。



そもそもなぜ、フィリピン人は5回も食事をするのかというとグループのコミュニケーションを行うためだそうです。

確かに職場で間食をする時はみんな仕事を止めて笑い合いながら食べているし、昼食時にはみんなで同じテーブルを囲んで楽しく食事をしています。

私もその中に参加させてもらっていますが、冗談などを言い合いながら関係が親密になって行くのがわかり、英語のいい勉強にもなります。

今日のトピックは私と妻の馴れ初めについて。現地の女性職員から質問が相次ぎました。笑

2018/08/18「楽しいビーチ清掃」

金曜日にSBMAの職員総出で近くのビーチの清掃に行ってきました。

実はこの清掃を行うに際し、チームの結束を高めるため同じ色のTシャツを来て行こうという話になり、私たちのDepartmentは赤で揃えることになりました。

まさに「赤備え」になったわけですが、なんでも楽しく行るのがフィリピン流。みんなワイワイ楽しくゴミを拾っていました！

そして最後はフィリピンお約束の間食タイム。

ビーチで頑張って掃除をした職員を労うようにアイスクリームが用意されていて、みんな美味しく食べてHappyな気分で職場へ戻りました。写真はお世話になっている部署の人たちです。



2018/08/22「バターン死の行進」の慰霊施設に行ってきました」

今週の日曜日に職場の同僚と一緒にサマツ山（Mt Samat）に行ってきました。Mt Samat は第 2 次世界大戦時に起こった「バターン死の行進」の慰霊施設がある場所です。

山の頂上付近には、Mt Samat 付近での戦いの様子を記したレリーフ、死の行進の様子を伝えるためのミュージアムや慰霊のための巨大な十字架があり、フィリピン人にとっては祖先の霊を慰める重要な「聖地」とのことです。

戦争から 70 年近くが経過し、被害者と加害者の子孫と一緒に写真に笑顔で収まれるようになったことは本当に幸せなことだと思いますが、ここで起こった歴史を忘れてはいけないということを強く思った一日でした。



2018/08/25「フィリピンで初めての社員旅行」

木曜から金曜にかけて所属する the Board of Secretariat(秘書課)のみなと一緒に Team Building に行ってきました。

Team Building とは課内の結束を高めるために行ういわゆる社員旅行のような物です。訪れた場所は Subic から車で 2 時間ほど北へ行った Crystal Beach というところ。

道中はバスの中でワイワイガヤガヤ、レストランではみんな楽しくフィリピン料理を楽しみ、みんなでビーチに繰り出したり（強風のため遊泳は不可）、サーフィンを楽しんだりしました。

このまま、遊びだけで一晩を過ごすのかと思いきや、上司が中心となりレクチャーとディスカッション通じて課内のビジョンや目的の再確認、SBMA の役割などを理解する時間もしっかりありました。

社員旅行は日本では絶滅寸前だと思いますし、面倒な仕事のひとつだというマイナスイメージが先行しますが、SBMA の Team Building は 同僚と一夜を過ごすことでチームワークを高めることができる効果的なプログラムだと思います。

笑顔の国フィリピンでは職場でもみんな楽しく仕事をしようという意識があります。これだったら出勤するのが楽しくなりますよね。



2018/08/31

早いもので 8 月 31 日が SBMA でのインターンの最終日になってしまいました。このインターンを振り返ってみると素直に本当に参加してよかったと思います。

理由の一つは実際にフィリピンでの政策決定の現場に立ち会えたこと。正直言ってアジア諸国の政府機関で働けるチャンスはそうそうありません。iYES に仲介していただき今回の大変貴重な経験をさせていただきました。二つ目はフィリピンが本当に好きになったことです。こちらに来る前はフィリピン人がこれほどまでにホスピタリティーに溢れた人々だとは思いませんでした。毎日、昼食時には私の机に集まってワイワイ食事をしながら、他愛もないお話や、時には両国の問題点について突っ込んだ議論をすることができました。また最終日には私のためにフェアウェルパーティーを開いてくれて本当に感動でした。インターン生に対してそのようなパーティーを開いてくれるというのは他国では聞いたことがありません。

英語の学習についてもフィリピンでのインターンシップはオススメです。彼らはほぼネイティブスピーカーであるため、英語表現やスラングなど色々と学ぶことが多かったです。オフィスでは彼らがよく話しかけてくれるので英語を話す機会が本当に多く、会話の最中にメモをとったりして密度の濃い会話の練習ができました。



まだまだ書きたいことはありますが、このような貴重な機会を与えてくれた iYES の中沢さんやスービックで出会えた素晴らしい人たちに感謝をしつつ筆を置きたいと思います。どうもありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしく。



40歳で初めての語学留学、スービックで体験！！

語学留学を決めた訳～留学前

学生の頃からの英語嫌い。そして米国人も多い沖縄に住み、沖縄のホテルで働いているとはいえ、所属するセクションではそれほど英語の必要性が無かった私は、大学を卒業以来、英語の重要性を感じてはいたものの、とても熱心に勉強するという事はありませんでした。



そんな私が語学留学を考えたのは、前職と同じホテル業への転職を考え始めた時です。外国のお客様が増えている中、予約のやり取りをする上で、ある程度は自分で対応できる英語力と度胸が必要だと考え、初めて“英語が話せるようになるにはどうすれば？”ということを実際に意識しネットでの検索を始めました。その際に“フィリピンなら短期留学が比較的安い価格で可能”ということが分かり興味を持ち、40歳にして初めて英語の環境に自分の身を置いてみたいと思ったのです。

フィリピン・留学、で検索すると出てくるのは多くがセブ島の学校でした。そして、留学の為にエージェントも色々出てきます。そもそも留学やフィリピンのことについて全く知識がない私は選択肢の多さに驚き、どこから選択すれば良いのかわからずとても困ったのですが、まずは私の留学でやりたいことの優先順位を決めるところから始めました。

私の優先順位は

- ・とにかく英語に慣れたい（特に TOEIC にこだわっているわけではない）
- ・ホテルで働く際にゲストからの予約等を英語で受け答えできるようになる
- ・海外旅行に行く際には旅先で簡単な英会話ができるようになりたい
- ・エージェントを介さないなら日本人が経営しているところ

そして、安全で落ち着いているところ

- ・10代や20代前半の若者比率が高くない学校

ということでした。

ネットで学校案内やクチコミなどを調べ進めていくうちに2~3校に絞られていき、その中でもスービックにある iYES Language school に興味を持ちました。

iYES の代表の中沢さんと直接メールを送りやり取りをしていく中で、しっかり対応頂き安心して過ごせそうだと感じたので iYES に 11 月～1 月迄の 3 か月間お世話になることに決めました。

他にも iYES に決めた理由としては

- ・経営者が日本人であり、HP やパンフレットがしっかりしている
- ・元アメリカ軍基地の跡地にあるということでアジア特有の雑然とした雰囲気ではない上に治安が良いらしい（景色が私の住んでいる沖縄に似ている）
- ・英語の先生に対する口コミ内容が良い
- ・スービックはリゾート地でもある上にホテルへのインターンシップを行っている
- ・近くに海があり、学校からも近いので勉強に疲れた時にリラックスできそう
- ・スービックは関空⇄クラーク便があり、しかもクラーク空港からスービックまでは車で約 1 時間。
- ・近くに飲食店が沢山ある

などがありました。

ホテルでのインターンも可能だということで、中沢さんとメールでやり取りをし、授業内容として① 1 ヶ月半 6 コマのマンツーマン授業 →② 4 週間のホテルインターン（午前中の 2 コマは授業）→③ 残りは 6 コマのマンツーマン授業が決まりました。

今回の留学を決めた際、私の回りにはフィリピン留学をした人はいなかった為、夫や友達、元同僚にもとても驚かれ心配されました。フィリピンの事はあまり知られていなく、治安が悪そうなど良い印象が無かった為です。

しかし、幸運なことに私が留学を決めた際に沖縄で仕事をしているフィリピンの方に出会い、その方の出身がクラークだったので近くのスービックのことも良く知っており安全で良い街だということ、大きなショッピングモールも近くにあり生活には困らないこと、そしてフィリピン人は優しくて陽気であるということ、沖縄にどこことなく似ている、などの話を聞き私の不安はまだ行ったことのないフィリピンへの期待に変わっていきました。



フィリピンへ出発～スービック到着

関空から4時間、クラーク空港に到着。時差は日本と1時間、思ったより日本に近いというのが到着後の感想です。そこから迎えの車に乗り約1時間でiYESが入っている建物に到着、私が3ヶ月滞在する部屋は同じ建物内にある1室でした。

中沢さんとの事前やり取りの中では、日本とは環境が違うので日本のような快適さは想像しないでくださいと聞いていた為に不安でしたが思った以上に広く、キッチン付き、ベッドも広く日当たりも良く快適でした。シャワーが水に近いぬるま湯だったり、トイレトーパーは基本的にトイレに流せないなどはありませんでしたが、少し不便なだけで生活に問題は無かったです。ただ、部屋に関してはどれも同じという訳ではなくそれぞれの部屋のオーナーによって内装が違うとのことでした。



授業

到着の翌日9時から授業がスタート。初めに英語力のテストを受け、どのレベルの教科書で学んでいくのかなど、私の要望も取り入れて頂きながら授業スケジュールが決まりました。1コマ50分、6コマの授業の内、文法2コマ+リーディング2コマ+Be My Guestというホテルについての教科書を使った2コマの授業をすすめてもらいました。6コマすべてマンツーマン、もちろんすべて英語。話を聞くのも伝えるのも必死。いつも授業が終わるころには放心状態でした（笑）。

先生方は明るくフレンドリーでスマホを使い画像を見せてくれながら説明してくれたり、わからない言葉があると、違う単語に置き換えて丁寧に教えてくれました。色々なタイプの先生がおり話題も豊富な為、楽しく授業を受けることができました。発音も聞き取りやすく、ゆっくり話してくれるのでマンツーマンでの授業は質問もし易く英語に慣れるのにとっても良かったです。でもそのような説明でもさえもわからない時もあり、自分のボキャブラリーのなさや若い頃のような記憶力のなさにショックを受ける毎日でした。

予習と復習時間は基本的には夕食後の1時間、朝の2時間を取っておりました。その他の授業としては近くのショッピングモールでその場にいる一般人に声を掛け、質問をしてみるというストリートレッスンも体験しました。フィリピン人は皆優しく、最初は照れていても丁寧に教えてくれたのが印象的でした。



他にもインターンシップ後の授業では先生方がゲスト役、私がフロント担当ということ実際のホテルでの受付のロールプレイングをしてもらいました。それは私の想像の遥か上をゆくロールプレイングで、誰がゲスト役なのかわからないくらいに先生が入れ替わりでゲスト役をしてくれ、途中からは電話での問い合わせも入ってくるなどかなりのパニック状態となりましたが、教科書通りの進行だけではなく、想定外の質問が来たときなどの対応やそのような中で相手に伝えることの大変さなどを体験できたことは、自分の足りないところを気付かせてくれ良かったと同時に、説明する言葉が出てこないことで悔しい思いをしました。

その後は改善点や良かったところなど先生方にフィードバックいただき、後日それをふまえ再度ロールプレイングをしてもらいました。その時には前回よりも良くなっていると褒めてもらい嬉しかったです。また iYES では毎週、授業内容や生活についての面談を中沢さんで行っていたので、要望も伝えやすく常に私に合った授業を考えられているところに安心感がありました。



インターン体験

スービックでの生活も1ヵ月半が過ぎた頃インターンが始まりました。私の希望内容はホテルのバック部門や予約の体験をさせて頂くことだったので、まずはホテルマネージャーの下についてホテルの仕事を知ることから始めました。

ホテルはそのホテル独自のやり方があります。インターン先のホテルでは私の働いていたホテルとはスタッフの持つ業務内容や役割が全く違うシステムだった為、私に何ができるのか分からずとても戸惑いました。しかし、せっかく外国で働ける機会なので自分にできることを提案してみようと、ホテルホームページやオンラインエージェントの情報変更や追加等の提案を行いました。また、お部屋の料金変更やゲストの伝票の入力をスタッフに英語で尋ねながら行うことができ、少しでも業務に携われたことは良い経験となりました。

そして、たまには客室清掃などにも入れてもらい、館内の清掃やタオルやシーツを置みながら若いスタッフと会話し、簡単なタガログ語やおすすめのフィリピンフードを覚えてもらったこと、突然お客様からチップを頂いたことは思いがけず嬉しかったです。

フィリピン人はとても明るく、スタッフが急に歌いだすのにびっくりしたこともしばしばありました。スタッフは皆優しく丁寧に教えてくれるのですが、フィリピン人同士では基本的にタガログ語を話し、こちらから質問すると英語で返答してくれます。どのタイミングで話しかけて良いのか戸惑うことも多かったので、上手くコミュニケーションを取るにはどうすれば良いのか考えることなども含め、インターンは外国で働いてみる良い経験となりました。

スービックでの生活

生活の面に関しては、部屋や教室は Wifi 環境が整っており、LINE を使えば日本にいる家族とも簡単に連絡が取れるのでとても便利でした。また、周りに大きなショッピングモールやスーパーもあり、ファーストフードや飲食店も豊富に揃っていたので食べることに困ることはありませんでしたし、滞在中に iYES で出会った生徒さんと授業後に食事に出かけたり、iYES を選ばなければ出会うことの無かった年齢もそれぞれ違う方々から、色々な考え方や体験を聞くことができそれだけでもとても勉強になりました。

部屋にはレンジやトースター、炊飯器、IH 調理器もあり自炊も可能で、料理や飲み水として使用する水も安く購入でき、格安でランドリーサービスも利用できるので不便さを感じることはありませんでした。授業後には運動も兼ねて歩いて 10 分程のビーチに行き、砂浜を歩きながら綺麗な夕日を眺め、たまにはスービックベイに寄港している大型クルーズ船を見ながらリフレッシュしていました。

3 ヶ月の間には映画館で映画を見たり、日本人の仲間とズービックサファリを訪れたり、インターン先で仲良くなったフィリピン人の子にカマヤンビーチに連れて行ってもらったり、先生にタコスを食べに連れて行ってもらったりとスービックでの滞在そのものを楽しむことができました。また、年末には沖縄から友達も来てくれたので一緒にマニラまでオロンガボからビクトリーライナーというバスに乗り、片道 4 時間もかけてマニラ観光に行けたのは良い思い出です。



全体を通して

3ヶ月の語学留学で私の英語が格段に上達したと言われると、ヒアリングは以前より出来るようになりましたが、途切れなく会話を続けることは難しいです。授業や現地での生活、旅行などを通して英語に対する恐怖心は薄くなりましたが、なによりここへ来て語彙力が必要なことを大変痛感しましたし、若い頃に比べて本当に記憶力が劣っていることも痛感させられました。

フィリピンに来る前にもっと勉強して行くべきだったと何度思ったことかわかりません。マンツーマンの授業でもっとフィリピンの文化や政治などについても詳しく聞きたい、そして沖縄のことについても説明してみたいと思っても語彙力が追いつかず先生ともっと会話を深掘して楽しめたかったという気持ちは今でも残ってます。

ただ、このような気持ちになれたことも今回の収穫で、英語の勉強をしっかりと続けていきたいという気持ちがわきました。今回の語学留学では楽しかったこと大変だったことも踏まえて充実した3ヶ月の滞在となりました。



親子三世代留学 in フィリピン

今年の8月下旬、義理の両親、私の父、そして1歳の息子連れてフィリピンのスービックに親子三世代短期留学にチャレンジしてきました。スービックは、フィリピンのルソン島西部に位置し、かつてアジア最大のアメリカ米軍基地があったところです。現在は経済特区となり、退役した米軍の方がリタイアメントライフを楽しんだり、欧米の方々がリゾートにやってきました。この地区に入るには、必ずゲート通り、IDを提示しなくてはならないため、治安も非常によく、女性や子連れでも安心して滞在できます。実際の滞在でも、この地区の中にいる限りは、本当に安心して過ごすことができました。

今回私は、自分の英語のブラッシュアップのために、現地にある英語学校に通いながら、ビーチに行ったり、プールで遊んだり、シニア層は、孫と遊びつつ、ゴルフを楽しんだり、フィリピンビールに舌鼓を打ったりと、皆でリゾートライフを満喫するつもりでした。

しかし、8月はあいにくの雨季。一度雨が降り出せば、ゲリラ豪雨のような雨がしばらくは続きました。日本の梅雨のようなイメージで行った我々は、その雨の強さに度肝を抜かれ、自然の脅威を思い知らされました。

結局、我々の滞在中に雨が止んだ日は1日くらいで、雨を満喫する日々となってしまいました。その結果、日本に帰ってきて、周りの人たちが、「すごい雨ね」と言っているのを聞いても、「えっ？これが？」と思えるほどに大雨に対する免疫がついてしまいました。ショッキングなことと言えば、我々が日本に帰国してから2～3日後にはスービックの晴れ渡った空をSNSで知ることになりましたが...

さて、今回の滞在中では、英語を学ぶだけでなく、英語学校のスタッフの方のアレンジで現地の幼稚園から大学まである学校見学もすることができました。そこでは、高校生の学生スタッフの方がガイドを務めてくれました。驚くべきことに、フィリピンでは、子どもの数が多いため、一つの校舎で同じ時間に全ての児童・生徒と一緒に授業を受けることができません。そこで、午前の部、午後の部に分かれ、授業を受けるとのこと。当日案内してくれた学生のスタッフの女の子は、午後に授業があるため、午前中は案内を務めても平気なのだと言ってくれました。私は、当日、彼女に小学校のクラスを見たいと伝えました。すると彼女は、3年生の教室のドアを軽くノック。どんと入って行き、授業を担当されていた先生にいきなり見学の交渉を始めたのです。先生は、このいきなりの訪問を受け入れてくださいました。私が教室に入ると、子どもたちが次々に集まってきて、「外国人なの？すごい！」「キムチすきよ！」「韓国と日本の違いは難しいようです」「大阪に行ったことあるよ」など、沢山のことを英語で話しかけてくれました。子どもたちのキラキラした瞳は、世界中、どこへ行っても子どもはみんな同じなんだなと私に気づかせてくれました。

今回の学校訪問では、他にも小学校の図書館や中高大の図書館の見学もさせてもらいました。どこも事前連絡なしでのいきなりの訪問でしたが、スタッフの方は皆、親切に案内してくださいました。最後に皆で写真撮影し、図書館の中にいたスタッフ全員が一緒に入ったの撮影となりました。私は、本当にほのぼのとした気持ちで学校を後にすることができました。

この突撃訪問に驚いた私ですが、スービックに住む知り合いに「どこの学校でも、いきなり行って、授業を見せてくれと頼めば、大概見せてくれるものだ」と言われ、その大らかさに驚きを覚えました。

一言で、その国の人々の国民性を表現するのは難しいですが、今回の私の経験から、フィリピンの方々は根っから明るく、オープン。そして、細かなことは気にせず、おおらかと言えます。例えば、道を子連れで歩いていると、「Hi, baby!」と多くの人が笑顔で息子に声をかけてくれました。日曜日に礼拝にも参加しましたが、礼拝の終わりは皆で拍手。ハッピーな気持ちが自然と拍手になって表れたようでした。ホテルでは、ハウスキーピングが2時になると言って4時近くになってしまうということは当たり前。真夜中に大声で歌いながらホテルの部屋に戻り、部屋の中で騒ぐお客さんもちらほらと…。細かなことを気にしてはダメ。おおらかに、「でん」と構えることの大切さも学ぶことができました。

今回は、なんとなくついてきただけの息子でしたが、Thank you は頻繁に言っていたためか、「てんきゅう」と言えるようになって帰ってくることができました。

海外に滞在することは言葉だけでなく、違った文化や考え方を知り、自分を見つめ直すきっかけを与えてくれます。もう少し、息子が大きくなったら、再びフィリピンに滞在し、英語を学んでもらいながら、大らかさと様々な事を楽しむ気持ちも学んでもらいたいと思っています。



アラフィフ ご褒美英語学習の旅

12月、日本が寒くなって来た頃、頑張った1年間のご褒美も兼ねて常夏のフィリピンで2週間程、英語学習をし、初めてのマニラ観光を楽しみました。フィリピンでの英語学習は3回目、今回の学校選びのポイントは、学校からビーチまで歩いて行ける事、大規模校より小規模校の方が面倒見がいいという経験があったので小規模校である事、英語レッスンが充実している事、この3点でした。この条件を満たしていてHPの雰囲気良かったのでスービックのiYESに決めました。

スービックは、元米軍海軍基地が在った堀に囲まれた出島のような場所で、現在は経済特区（Subic Bay Freeport Zone : SBFZ）となっており、街の雰囲気は半分アメリカで、他のフィリピンの街と随分違うような気がします。歩いて橋を渡るとオロンガボという街になり、こちらはジブニーやトライシクルが走り、ゴミゴミとして活気溢れるいわゆるフィリピンの街です。オロンガボの街にもマーケットに買い物に行ったり、夜、お酒を飲みに行ったりしました。スービックは、安全できれいな SBFZ とオロンガボの二つの雰囲気を楽しめる一度で二度美味しい場所だと思います。



私は、英語学習の後にマニラの友人を訪ねようと思っていましたので、スービックに近いクラーク空港ではなくマニラ空港からフィリピンに入りました。日本から4時間です。日本は既にコートを着込む気温でしたが、マニラ空港の到着ゲートに着くなり「夏」でした。寒いのが苦手なので、暖かいというだけで嬉しくなりました。iYES に車で迎えに来てもらいスービックに移動し、今回の英語学習の旅が始まりました！

次の日は、土曜日で学校はありませんでしたが、オーナーの中沢さんに誘って頂いて先輩生徒さんと Magic Lagoon という湖に面したお洒落なカフェバーでランチを頂きました。「お昼ですが、お酒はどうされますか？」と聞かれ、「ビールで！」と即答しました。お店の雰囲気もいいし、お食事もビールもとても美味しかったです。その後、先輩生徒さんの案内でビーチに行って、きれいな夕焼けを見ました。日曜日の早朝は、ビーチで朝ヨガをして本を読みました。その日はあまり暑くなくて、午前中は歩いてお散歩するのに最適でした。午後は、スタバも入っている Harbor Point というショッピング

センターを見て回って、映画を観て、朝食用の焼き立てパンやマンゴー、パパイヤなどのフルーツ、夕食用に鳥の丸焼きを買って帰りました。鳥の丸焼きは、私のお部屋で先輩生徒さんと一緒にビールを飲みながら美味しく頂きました。フィリピンは、食べ物の話を書くと切りがなくなる程、何を食べても美味しいです。フルーツはもちろん、パンや甘いデザート、肉や魚介類を使った料理も沢山あり、とってもリーズナブルなお値段で外食も楽しめます。



月曜日からレッスンが始まりました。私が英語に関して一番練習が必要なのは会話力なので、1日のレッスンを全てワンツーマンの会話レッスンにしてもらいました。One to One という自由会話と University Student Discussion というテキストを使用した2種類のレッスンになりました。一コマ50分で、午前3コマ、午後4コマの一日7コマでしたので、単純計算でも1日6時間、話しまくってあっという間に時間が過ぎました。米国の影響が強く残るスービックという土地柄もあるのか先生方の英語の発音は綺麗で聞きやすく、何より、色んなタイプの先生がいらして、それが楽しかったです。ある先生はとてもジョークが上手で話していて楽しい、ある先生は結構真面目で仮定法をきっちり教えて下さったり、若い女子の先生とはファッションや食べ物の話で盛り上がり、という感じです。どの先生も熱心で親切で教える事に飽きていないという感じ、先生の評価シートもあり英語教授に関して真剣に取り組んでいらっしゃるのを感じました。授業が終わると毎日、他の生徒さんたちとビールを飲みに出かけていました。お勉強の後のビールの美味しい事！フィリピンでは、コンビニの店先にテーブルが置いてあって、そこで買ったものを飲み食べることができます。外食の合間のこんな飲み方も楽しかったです。

爪切りを忘れたので先生にネイルサロンを教えてくださいました。

150ペソ(320円)とは思えないクオリティの高さ！





先生に連れていってもらったバナナの葉をお皿にした伝統料理。手で食べるのが楽しいです。

2回目の週末は、iYESの日本語教室へのゲスト参加とビーチでした。私は日本語教師養成講座に通っていて日本語教授法を勉強中でしたので、土曜日の日本語教室に参加してゲームの一つさせて頂きました。フィリピンあるあるですが、とにかく明るい人が多いので、生徒さん達は大人の大人にも関わらず、ゲームは大盛り上がりでした。次の日は、この日本語教室のクリスマスビーチパーティに中沢さんや他の生徒さん達と一緒に誘って頂いて、ビーチで遊びました。生徒さん達が用意して下さいった手作りのフィリピン料理はとても美味しくて、ここでは書ききれませんがビーチでも、初のパロット体験など色々あって、とても楽しい休日になりました。



2 週目はあっという間に過ぎてしまいました。2 週目の木曜日ぐらいから、やっと英語を話すことに口回りの筋肉が慣れて来た所だったので、もっと英語の勉強もしたいし、スービックにも長く暮らしていたいなあと思いました。iYES から提供して頂いた宿舎は、2 部屋できちんとしたキッチン、シャワー室がある自活できる場所で、出たごみは廊下にだしておけば毎日回収があり、お鍋や食器も揃っていて自炊が可能でした。（朝食に使用したのみでしたが）飲料水もタンクに入って 2 週間では使いきれない量をお部屋に持って来て頂いて 50 ペソ(110 円)でした。ちょっとした心遣いですが、毎日ペットボトルの飲料水を購入する事を思うと、とても有難かったです。そのお水を電子ケトルで沸かして、毎日、日本から持参したドリップコーヒーを淹れていました。私は、日本では肩凝りがひどく、ヨガなどもやっていますが、フィリピンは暖かくて、異国という事でリラックスできるのか何故か肩凝りも感じません。とにかく楽しかったです！



海外での英語学習に関して日本語を使いたくないので日本人が少ない学校がいいという事がありますが、フィリピンに関しては 100%日本人でもマンツーマンの授業がとれるので全く関係ないと思います。私は、日本で TOEIC 対策講座に入って「TOEIC 受けられた事がありますか？」と聞かれたりすると、隣の若い生徒さんを見て、「私はあなたが生まれる前から TOEIC 受けてるわ」と心の中でつぶやくほど長い間英語学習をしています。アメリカやニュージーランドで英語学校に通っていた事もありますが、私にはフィリピンが英語を学習するのに最適な場所でした。グループレッスンに向いていなくて、まず、60 分の授業でも 6 人のグループレッスンだと一人の持ち時間はわずか 10 分ですので、時間効率が悪く、せっかく海外にまで来ているのに、ただ座って聞いている時間が勿体ないと感じてしまいます。次に、グループレッスンでは他の生徒さんが気になり、レベル差、発言時間などへの配慮が生じて、思いっきりレッスンを受けられなかったりする事がありました。それが、ワンツーマンですと気兼ねなく自分の為だけのレッスンとなります。iYES のキャッチコピーは、「顔の見える語学学校」ですが、本当に個人の希望に合わせてレッスンをコーディネートされていたように思います。私が滞在中もゴルフ中心の生徒さん、仕事が忙しく滞在期間が短いので週末も勉強されていた生徒さん、朝、バスケットをしたいという生徒さん、夜クラスの駐在員の生徒さんなど色々いらっしゃいました。

入学が決まると Web での面談があるので、フィリピンに来る前に希望を伝えたり、確認ができたりするのも安心でした。



オロンガポのマーケットでお買い物。



歌手でもある先生のステージを観に行きました。



映画好きの私は、フィリピンで毎回映画を観ます。

今回、マニラへの移動はオロンガポからの長距離バス、ビクトリーライナーを利用しました。出発当日、中沢さんが車でオロンガポのバスターミナルまで送って下さいました。本当に名残惜しかったです。2週間って、日本にいるとアツという間ですが、フィリピンに来ると毎回、色々な出会いがあり、色々な経験ができます。安近短で時差も少なく、食べ物も美味しく、人も明るい、フィリピンは大好きな国です。特にスービックは、治安がいいという事もあり、本当に快適でした。今度は、もう少し長く滞在したいと思います。



人生最初の親子留学

○iYES との出会い

2019年3月23日から4月4日まで、私は16歳の娘とiYES Language Schoolで学びました。飛行機旅行に対する恐怖心から、主人から長らく反対にあっていましたが、ついに親子留学の夢を果たしました。当初、春休みを利用して娘が語学留学できる場所を探そうとしていました。昨年春にオーストラリアゴールドコーストに8日間ホームステイした娘の第2弾を考えていました。「親子留学」の気持ちはほとんど消えかけていたのです。「親子でいっしょに何かを・・・」という時期も過ぎてしまったのだと自身を納得させようとしていたところがありました。娘が高校より持ち帰った留学斡旋パンフレットを見ながら、「この中から選びましょうかね・・・。次はイギリスにしようかな・・・。しかし、短期間だからしかたないとはいえ、イベント的な内容が多くて実質の語学学習は少ないな・・・。」と思ったその2日後友人から、「理恵さん、以前から親子留学したいって言ってたよね？いい学校見つけたよ！行ってきた！！」とのLINEを受け取ったのです。彼女から勧められた語学学校がiYES だったのです。まず、国がフィリピンだということで「治安」が一番の心配でした。



おまけでいうと、学校名を口で発音してみたときにも不穏な感情が少しわきましたが・・・

しかし、フィリピンで、しかもそれぞれ別の語学学校で複数回学んだことのある彼女の説明に心を決めました。少なくとも説明をきいただけで、私が漠然と抱いていた3つの条件である「安全」「予算内」「個別指導（娘とはレッスン別）」はクリアされているなあ～と思ったからです。そして、この留学後、彼女が話してくれたことに何1つ嘘はなかったと思って留学を終えることとなります。

○スービックでの生活

その友人のすすめもあって、関西国際空港からクラーク国際空港へ飛びました。マニラからだスービックまでの車移動に超渋滞するからとの助言でした。空港にはウエルカムボードを持って学校からお迎えの車が来てくれ、1時間少いでスービックに着きました。車中、運転手のMさんが松田聖子や宇多田ヒカルの曲を流しながら、車窓から見える風景に関する私の質問にもフレンドリーに答えてくれました。到着は土曜日だったのでレッスンはなかったのですが、iYES 経営者の中澤さんが Magic Lagoon というフィリピン料理専門店でウエルカムディナーに連れて行ってくださいました。と同時に翌日曜日に何をしたいかと訊いてくださり、ちょうど同時期にiYES で学んでいた大学生や高校生の生徒さんたち5人に同行

して、Camayan Beach で過ごしました。スービックで最も有名なリゾートの 1 つらしく、宿泊施設やレストランも併設のきれいな海でした。今回の日程は、私の仕事と娘の春休みの都合、そして関空ークラーク間のフライトの都合でとれる最長期間でしたが、週末が 2 回ありました。



2 度目の日曜も海に行きました。趣向は全く異なった雰囲気 of Inflatable Island というオロンガポにあるウォーターパークでした。名前の由来を、同行してくれた現地講師にたずねると「行けばわかる」とのこと。なるほど、巨大な浮遊物が海にあって、みんなライフジャケットをつけてアスレチックに興じるのです。あまりにはしゃぎすぎて、股関節の筋肉を痛めたのだ、腕が痛いのだ大変でした。まあ、他の団体には腕を三角巾で吊っている人もいましたから、我々は常識の範囲だったかも。みんな浜辺で「2 週間で消えるから大丈夫 tatoo」を入れてもらい満面の笑みもつかのま、帰りのシャワーで「薄くなった！」と文句を言っていました。Tattoo をいれる勇気も出なかった娘は帰りにそと私につぶやきました。「海で泳いだの、初めてだったかも・・・」瀬戸内育ちなのに泳ぐことの苦手な私は、娘を小 2 から中学卒業までスイミングスクールに通わせることはしても、海には連れて行ってなかった・・・と改めて気づきました。



ちなみに、週末のもう一日は JEST CAMP という鳥園に行きました。オーストリッチやクジャクなど様々な鳥を見ることができました。鳥以上に興味深かったのが先住民 A E T A 族のサバイバルショーでした。聞き取るのに苦労する英語でしたが、木の切り口からあふれてくる水を飲ませてくれたり、ソーブになるアワの出る木を紹介してくれたり、竹をつかって様々な調理器具をつくり、最後には火おこしを実演してくれました。火おこしは、「私は 60 歳なので体力が・・・」と A E T A 族の人ですら若手と交代していました。私たちのだれも火をおこすことができず、iYES のインターンシップ生である大学生の男子（日頃からジムで体を鍛えている。）ですら、煙がうつすらたちのぼっただけでした。

娘と一緒に参加したこともあり、平日の夜は遠出をすることはほとんどありませんでした。スービック内の Harbor Point というモールで雑貨やコスメをみたりしました。食事も、iYES 作成の「スービックでレストラン巡りしてみませんか？」という冊子に掲載されているお店をたずねていきました。日本食も韓国料理もイタリアンもフレンチも何でも味わうことができました。初日に連れて行ってもらったフィリピン料理専門店はとてもおいしかったです。高級店だからかなとも思っていたのですが、基本的にフィリピン料理は野菜が豊富で味付けがマイルド、スパイシーが好みならさらに足して味を補うという感じで何を食べてもおいしかったです。わたしは、サイドメニューの achara というパパイアのピクルスが大好きになり、Royal というスーパーで一箱買って2晩で食べました。そういえば、滞在ものこりわずかとなった夜、みんなと夕食を食べに行く前に、オロンガボの屋台で Balut（バロット）という「孵化しかけたアヒルの卵をゆでたもの」にトライしました。味は、鶏の固ゆで卵のようでおいしかったです。殻を一部むいた時に黒い色が見えたときは、ぎょっとしました。暗かったから食べられたかな・・・。「フィリピンの珍味を是非食べないと！」と全員分の Balut を買ってふるまってくれたフィリピン人講師は、「ぼくは食べないことにしている。」ときっぱり！！何なんだ・・・？私も2度目は結構です。ちなみにおいしいマンゴーシェイクもフィリピン最後の夜に味わうことができました。食で心残りは、シニガンスープをトライできなかったことです。



○iYES での学習

滞在期間が短かったこともあり、私も娘も1日7時間レッスンを希望しました。どのようなレッスンを希望するかについては、事前にLINEのビデオ通話で面談をしていただきました。中澤さんとは日本語で、現地講師の先生とは英語で、トータル40分くらいだったかな・・・？「スピーキング中心で、多くの語彙にふれたい」との希望を伝えました。若い頃に留学経験もなく、まじめに受験勉強をした経験もなかったからです。

娘についても、「日本人社会の中ですら超内気」な性格に刺激を与えていただければと思っていました。事前面接は、とても有効だと感じました。特にショートステイの場合、「どんな学校？どんな人が先生？」と不安を抱えて過ごす最初の数日があったいなと思うからです。事前の面接で、希望もきちんと伝えることができたし、どんな雰囲気スタッフなのかがある程度わかり、安心してフィリピンにとべました。また、同時期に来ていた高校生の女の子も事前に親御さんが中澤さんと連絡をとられ、よくよく話をしてくださったせいで自分の留学希望が叶ったと話してくれました。彼女は、午前中語学

レッスン、午後からはインターンシップで飲食店で働かせてもらっていました。本当に明確な希望を伝えればそれに添うようにカスタマイズしてもらえるのだなあと他の生徒さんを見ていてわかりました。

授業は1コマ50分で3コマ。リセスは10分。ランチブレイクは1時間半。午後は、5コマ目と6コマ目の間は30分ほどのロングリセスがあり、7コマ目は生徒講師合同でのアクティビティでした。私は大学生レベルのテキストを使って、500語～600語程度で書かれた話を読み、それに関する10個程度の questions について、講師と discussion するというスタイルを通しました。原則、話を音読する際に、発音の修正、指導を受け、難解語彙・語句については paraphrase が要求されました。また、こちらから意味のあやふやな文や段落について質問すると、講師が retelling してくれました。私は、関心が薄く、知識に乏しいことが原因で理解がいまひとつであったり、ディスカッションにも踏み込んで言えないことが多くありました。そういうときは、前段階として visual aids を駆使して予備知識を与えてくれて、ディスカッションへのモチベーションを上げてくれました。帰国後に観るよと紹介されたDVDも多くあります。基本的にとてもよく辛抱して、まずは「聞いて」くれます。そのあとで、自分の意見を賛成または反対の立場で話してくれるという感じです。その中で彼らが使った「私にとっての New words」は説明しながらもボードに書き残してくれるので、のちのちの復習のためにメモすることができました。講師のキャラクターは様々でした。「そうだよね、私も賛成。たとえばこんなこともあるよね・・・」と私の意見を支援するための理由をくわえてくれたり、「でも、ooだったら、どうするの？」と敢えて私の弱い裏付けを突いて衝いてくるいじわるな(?)講師もいて、授業はとても stimulating でした。「あ～、こういう言い回しができるのか。」とか「こういうふうはこの単語は使うのか・・・」と思うことしきりでした。若いときに、こんな授業をもっとたくさん経験したかった・・・と思いました。最終授業ののち、「修了証」と手作りの「メッセージボード」をいただきました。From your iYES FAMILY と書かれた表紙がとてもうれしく、妙に納得してしまいました。



○最後に

クラーク空港から朝 7 時のフライトで関西圏から参加の高校生といっしょに関空まで帰りました。早朝 4 時起きにもかかわらず、中澤さんからごあいさつをいただき、入国のときと同じ M さんの運転する車で送っていただきました。関空まで迎えに来られていた高校生のお母様と小学生の弟さんは、もうすでに「夏休みに家族で行きたい。」とおっしゃっていました。当の本人は、「私は大学受験を乗り切ってから、長期にまた行く！」と言っていました。私の娘はどうだろう…。「わたし、何かするとき最初はどのように、どのようにって悩んでしまう…。でも、勧められたことをやってみたら、結局あとで良かった～って思う。今回もそう…。」旅を終えた数日後に娘がつぶやいたことです。本心かな？（笑）本心だといいなと思います。メッセージボードには、彼女の良さを受け入れ、しかし様々な経験を受け入れ、思いを口にする努力の必要性をきちんと伝えてくれるメッセージがあふれていました。本当に感謝です。勧めてくれた友人にも！

iYES Language School は本当にどんなニーズにも応えてくれるアットホームな語学学校です。老婆心ながら、若い人たちに（少なくとも 50 代の私よりも若い人たちに！）、実践的に英語を学び、自分の人生を豊かにしていくために、最大のサポートのいただける iYES で学んでいただきたいと感じました。

私自身は…、次回はひとりで滞在して、英語学習はほどほどに、夜のオロンガポを冒険してみたいと思います。その時にも、iYES のスタッフは「介護」じゃなかった「介添え」してくれるかな…？あっ、シニガンスープもお願いします。



大人の社会科見学-ちょっと変わった 50 代のインターン

ここ数年、1 週間のゴールデンウィークはフィリピンのクラークにある英語学校に留学していた 50 代サラリーマンの私。なぜフィリピンのクラークかというと、日本のエージェントに勧められ、しかも価格が安いというのが理由でした。ただ今年 2019 年は史上最長のゴールデンウィーク。今までと違うことをしたいと思い自分で学校を探すことにしました。

実は去年より会社の新規事業部に配属され、東京にビジネスホテルを建設するにあたって、私は今まで経験のない飲食関係の立ち上げ責任者に任命されました。そこで思い立ったのが、1 週間という短い期間で英語が勉強でき、ホテルの研修（出来ればレストラン）をアレンジしてくれ尚且つ、日本人経営（細かいニュアンスが通じる）の英語学校をこの 4 月の下旬に探したすという、無謀な条件でインターネット検索することになりました。そして、奇跡的（ホントに）出てきたのがスービックにある、iYES Language School という初めて名前を聞く学校でした。

場所はマニラから車で 3 時間前後の海岸沿いのリゾート地で、経済特別区に指定されているスービックというゲートがある安全な地域です。ちなみにこのエリアでは、安全な証として、他の地区ではあまり見られない光景のひとつに、早朝に沢山の人がジョギングをしています。また、物売り、物乞い、ストリートチルドレンも全くいません。しかも大きな交差点には日中ですが、警官がいるので、皆横断歩道を渡っています。交通手段はジブニーやトライクが通行禁止なので、タクシーもしくは徒歩での移動となります。また交差点では必ず車が一旦停車します。ただし Grab などのライドシェアは今のところ使えませんが。

幾つかの英語学校エージェントのホームページでも学校の名前は出てきますが、口コミなどの情報もあまりないので、直接問い合わせをすることにしました。この学校は英語を習うということだけでなく、使うことに重点を置いたインターンプログラムに力を入れているようで、詳細なプログラム内容、宿泊先ホテル情報、生徒さんの体験記そして近隣情報など沢山の資料を見ることができました。

本来のインターンは通常、就職前の若い人が対象であり、私のように会社生活が終わりに差し掛かっているような人向けではないのですが、快く引き受けていただきました。私のリクエストは、朝食ビュッフェを行っているレストランで、できれば日本人経営ホテルでの 5 日間インターン希望をしたところ、エリア内のサン プラザ スービック ホテルをアレンジして頂きました。

このサンプラザスービックホテルは2014年8月オープン、
コンドミニアム併設、サウナ・スパ・ジム・レストラン・バーありで、
日本企業の契約宿泊施設となっているホテルです。

期間は4/29（月）～5/3（金）の1週間で、AM3：00
～AM8：00がホテルレストランでのインターン、10時から学校
で英会話2時間のスケジュールでした。初日ホテルで、紹介
されたのは日本人のレストランコンサルタントでした。彼は日本
の御三家といわれるホテルで長年修行をして、イタリアなど各国
のレストランで働いた経験をもつプロフェッショナルな方です。初日は早朝の研修はなく、午後に研修の内容や日本で建
設中のホテルの話などの打ち合わせや、情報交換をおこないました。事前に学校の代表である中沢さんに、自分の簡
単な経歴と職歴を送付し、何度かメールでやり取りを行ったおかげで、研修場所と内容にはミスマッチは全くありませんで
した。研修先のホテルはバーと併設のため、24時間営業で全員フィリピン人のスタッフが交代勤務で行っています。彼
ら彼女らにすると日本から私のようなオジサンがOJT（現地では皆、研修の事をこのように言っていました）で、しかも1
週間しか居ないことが不思議らしく、毎日しかも全員に沢山質問を受けたのは少なからず、英語の上達にもなりました。



さて研修内容ですが、1つ目は朝食ビュッフェの準備で、調理
補助（パンケーキ作り・コーヒーのドリップなど）や出来た料理の
配置などを行いました。2つ目はキッチンの清掃でフロアのブラシ
掛け、モップでのふき取りなどを行いました。3つ目は席に着くお客
さんの注文とりで、内容は卵料理（オムレットと中に入れる具の内
容、目玉焼き、スクランブル）、パンケーキ、ワッフル（ワッフルメ
ーカーを使います）のリクエストを聞きます。最後に買い出しで、
これは朝の5時にゲートの外にあるローカルマーケット2か所で、
1日分の生鮮3品の購買をコンサルタント、現地ドライバーと一



緒に行いました。この日買ったのは、マンゴー・リンゴ・メロン・豚肉ブロック・エビ大小・玉ねぎ・カラマンシ（柑橘系でカクテ
ルに使う）・レタス・唐辛子・インゲンなどそれぞれ1～2kg単位で、価格はマンゴーMで1個30円、バナメイエビ
大で800円/kg位と日本の価格の3～4分の1と非常に安いです。尚、ローカルエリアなので、冷凍や冷蔵でパック
された食品などは物流網が無い為、価格が非常に高く、すべて素材から手作りで調理をしており、買ってきた素材はす
ぐに調理できるように、小分けやカット等をして、冷蔵および冷凍にしてストックしていました。日本でのように市場には行
かず、業者に配達を頼む事もできるようですが、品質の確認という概念がフィリピン人同士ではなく、廃棄が多くなるの

で仕入れは日本人コンサルタントが行っているとの事でした。buffet料理は長期滞在者が飽きないように、毎日日替わりで提供し、宿泊者の国籍比率により、多少アレンジしていました。

スービックには日曜日到着でしたので、この日の夕食は中沢さんとサンミゲールビールを飲みながら、近くのなんちゃって日本食レストランで楽しい1夜を過ごさせていただきました。また、水曜日の夜は中沢さんの呼びかけで、学校の生徒さん全員で学校近くの韓国レストランに行き、焼き肉をたっぷり頂きました。この時、学校にはGWを利用して30代の日本人夫婦が英語を勉強しに来ていました。今回空港から学校までの往復は送迎を使わずに、自力で行ったのも良い経験になりました。

最後に題名に社会科見学と書いたのは、何もインターンが若い人だけのものではなく、いくつになっても出来るということを非常に感じたからです。また、規則や決まりごとの多い日本と比べ（そこが良い所でもあるのですが）大らかで細かい事は気にしないフィリピンの人たちと交わるというのは、単なる旅行ではできない貴重な体験ではないでしょうか。また中沢さんのご尽力のおかげで、様々なリクエストにも応じていただき、誠に感謝しております。通常の英語学校には出来ないことをこれからも、ここで提供し続けてくれることをお願いし、結びにしたいと思います

以上最後までお読みいただきありがとうございました。



Subic で夫婦留学

私たちは 2019 年の長い GW を利用して 2 週間ほど短期留学するため、スービックの語学学校、iYES にやってきました。主人は日本で毎日、フィリピン人講師とオンライン授業を受け、そして大手英会話学校に数年通っています。語学学習に非常に熱心に取り組んでおり、私が留学を勧めたことがきっかけでした。私は大学生の時にフィリピンに留学経験があり、格安で割と近場であるフィリピンで学習するのがよいと思ったのです。

平日は朝 9 時から 5 時 50 分まで、休憩をはさみながら、楽しく英語の勉強をしました。フィリピン人講師の方々が、丁寧にわかりやすく指導してくださいました。主人は留学の集大成として、皆の前でプレゼンを行いました。仕事で英語でのプレゼンをしなければならない場面も多く、とても自信がつき、良い経験になったと言っています。スクールは、先生もみんなとてもフレンドリーで、和気あいあいとして居心地がいい空間でした。最終日には、皆でフィリピン料理《CocoLime》に食事に行きました。



私が 10 年前にフィリピンに留学した時は、語学学校がとても厳しく、夜に外食を楽しんだりする余裕がありませんでした。また、治安が悪く、一人で出歩けなかったため、スービックの治安の良さには驚きました。iYES では授業もアレンジしてもらうことが可能なので、朝は授業を受けて午後から遊びに行ったり、休日を入れたりできます。夫婦やカップル、友人同士で気軽に留学 & 旅行が楽しめるのです。



授業が終わったらディナーの時間です！学校の周りにも、少し行ったところにも、たくさんのレストランがあり、毎日どこに行こうか決めるのが楽しくて仕方ありませんでした。学校からすぐのところにも、大きなモール<HARBOR POINT>があり、食料を買うこともできます。日本円から考えると、どこの食事でも安くて、美味しく、食べたいものを食べただけ食べました！ただ、フィリピンの食事は揚げたチキンなどが多く、野菜が不足してしまうので、気を付けないと太ってしまいます。



私たちのお勧めのレストランをいくつかご紹介します。是非、スービックに来たら行ってみてください。

《Pizza Volante》

学校の近くにある、とてもおしゃれなイタリア料理のお店で、美味しいです！こちらでは、フィリピンで不足しがちな野菜、サラダを食べることができます。夜には生演奏があり、たくさんのお客さんと賑わっています。価格も一人 400～600 円からでしっかり食べることができます。お気に入りです、何回も通いました。



《INASAL》

HARBOR POINT にあるファーストフードのお店です。ここのチキンは揚げ物ではなく、炭火焼です。余談ですが...私の地元、山口県岩国市の「いろり山賊」というお食事処（観光地として有名です。www.irori-sanzoku.co.jp/）の山賊焼ととても似た同じ味がして、懐かしく思いました（笑）。軽く食事を済ませたいけど、揚げ物ばかりの食事が多くなってしまったときに、こちらに食べに行きました。一人 250 円くらいからです。



«Jollibee»

こちらもファーストフードの人気店。とても美味しいです。滞在初日、空港からスクールに向かうタクシーの中で、ドライブスルーで購入し食べました。大好きな味で、すぐにファンになりました。



«TEXAS JOE'S»

ステーキのお店です。ほかのお店に比べると、かなりお高いです。ハワイでTボーンステーキを食べたことがあるのですが、その時1~2万円したかと思えます。こちらではそれが3500円くらいです。味もとてもよくて、ステーキが食べたらおススメです。カウガールの格好した店員さんが注文を聞いてくれます。



«CocoLime»

先ほどご紹介した、フィリピン料理のお店。ココナツのジュースとパイナップルライスで、フィリピンを堪能できます。HARBOR POINTのすぐそばです。



授業のない土日や祝日を利用して、日帰りでいろんな場所に遊びに行きました。スービックには、本当にたくさんの遊ぶ場所があります。私たちが気に入った、夫婦で楽しめる場所をご紹介します。

《Ocean Adventure》

ここは、アメリカ人経営のリゾートです。一番面白かったのが、イルカとの時間です。餌をやったり、一緒に泳いだりして、貴重な体験ができます。スタッフが写真をたくさん撮ってくれます。HARBPR POINT に行けば、インフォメーションの方が丁寧に案内してくれます。近くから、無料バスが出ています。



《CAMAYAN BEACH》

Ocean Adventure の隣にあり、同じ系列のリゾートです。ホテルが隣接しており、一人 700 円くらいから食事も楽しめます。入場には ID が必要で、パスポートなど持参する必要があります。カヤックでマングローブにも行けるツアーがあって、トビウオの群れがカヤックに飛び込んできたり、サメやカメに出会えたりします。晴れた日の朝には、透き通った海と海底を見ることができるなど、神秘的な景色を楽しめるでしょう。無料バスで行くことができます。



《Zoobic Safari》

ありえない至近距離で、トラなどの猛獣を観察できます。チキン付きの竿を 120 円で購入して、クロコダイル釣りが大人気！少し身の危険を感じました（笑）。



《Jest Camp》

たくさんの鳥類がいます。なんと、ダチョウに触れることもできます。



2週間滞在しましたが、素敵な思い出になりました。ここでご紹介できていない楽しい場所が、他にもたくさんあります。スービックは夫婦やカップル、家族、友人同士で滞在するのに、とてもお勧めの場所です。実は、また行きたいと思っています（笑）（笑）。

スクール関係者の皆さんに、心から感謝申し上げます♪

